


治安等に関するアンケート結果

平成19年4月

鹿児島県警察本部 

1 調査目的

治安等に関する県民の意識を調査することにより、安全に安心して暮らせる鹿児島島の創造に向けた警察行政を推進する上での基礎資料とするため。

2 調査項目

- (1) 鹿児島島の治安について
- (2) 犯罪に関する情報について
- (3) 安全で安心なまちづくりについて
- (4) 子どもの安全対策について
- (5) 交番・駐在所について
- (6) 交番相談員について
- (7) 警察安全相談について

3 調査対象

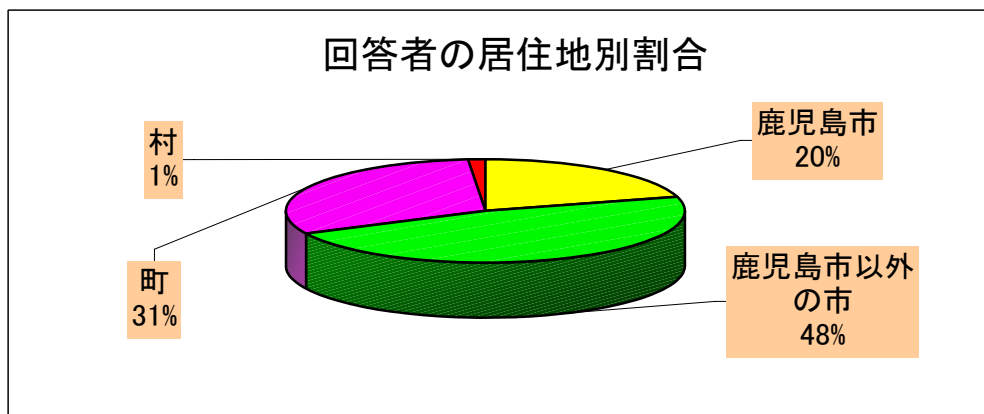
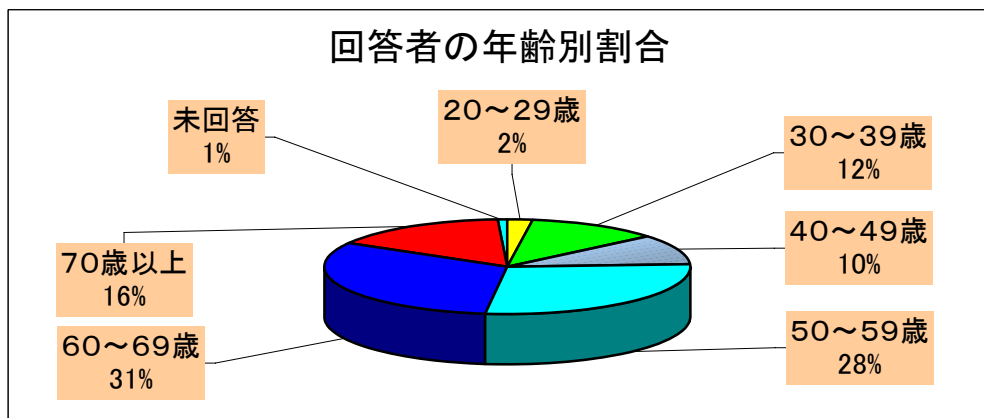
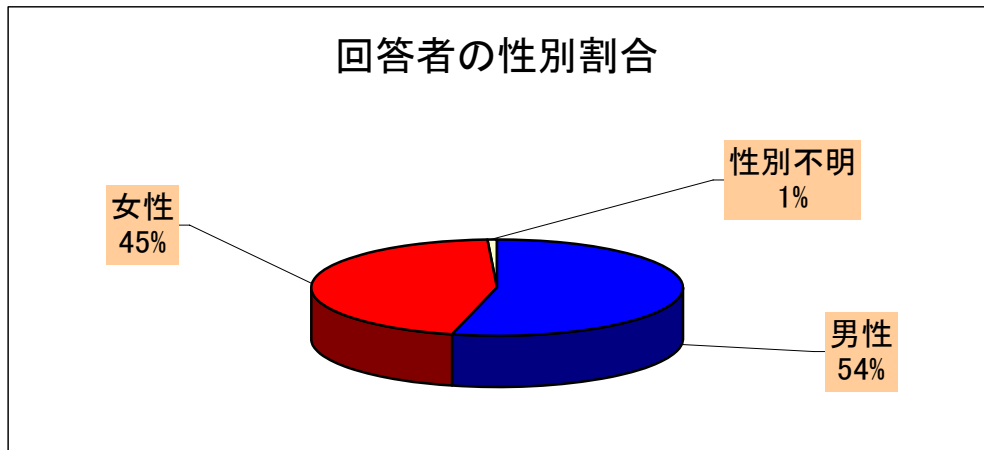
県政モニター 213人

4 調査時期

平成19年3月1日～3月23日(23日間)

5 回答結果

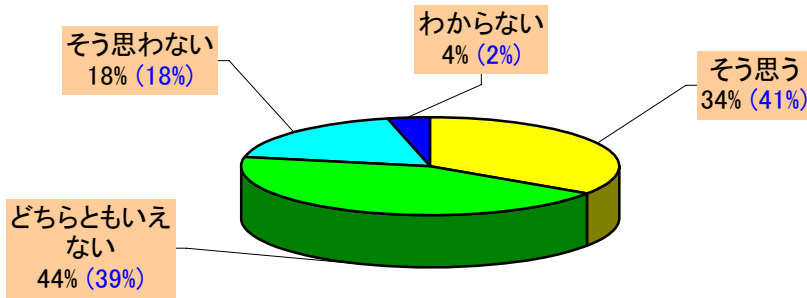
- (1) 回答者 137人(男性 74人, 女性 62人, 性別不明1人)
- (2) 回答率 64%



1 鹿児島島の治安について

※()は、前回アンケート結果(平成18年2~3月実施)

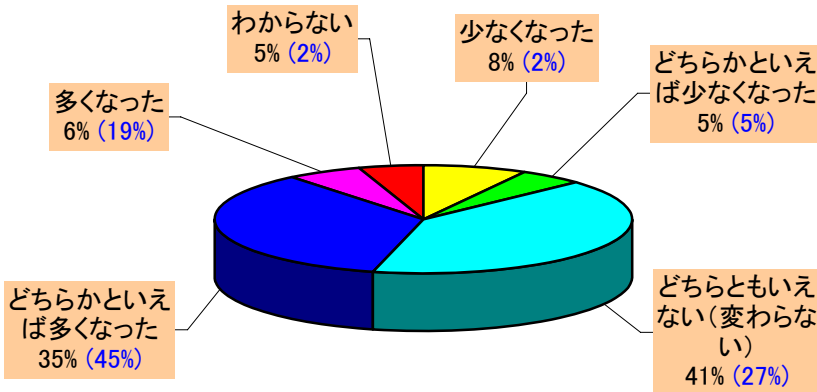
Q1 あなたは、現在の鹿児島県が、治安が良く、安全で安心して暮らせる県だと思いますか。



Q1

「現在の鹿児島県が、治安が良く、安全で安心して暮らせる県であると思う」と回答した方は、34%であり、前回の調査時より7ポイント減少、「どちらともいえない」と回答した方が、44%と前回の調査時より5ポイント増加し、他方「そう思わない」と回答した方が、18%と前回調査時と同様の結果となった。

Q2 あなたのお住まいの地域で、ここ1年間で、自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安になることが少なくなったと思いますか、それとも多くなったと思いますか。

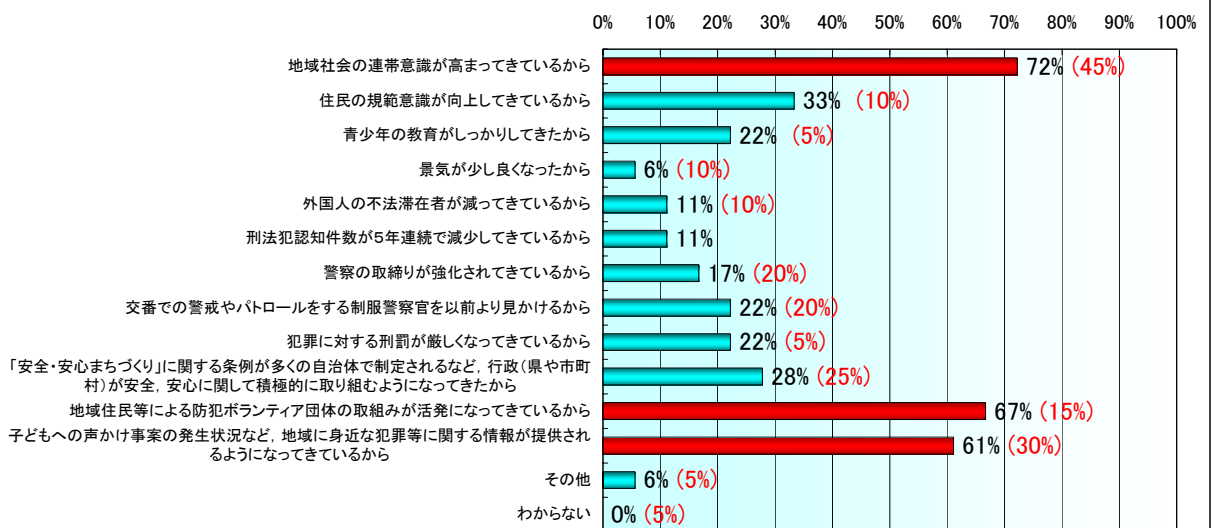


Q2

「あなたのお住まいの地域で、ここ1年間で、自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安になること」について、「少なくなった」又は「どちらかといえば少なくなった」と回答した方が13%であり、前回の調査時より6ポイント増加し、「多くなった」又は「どちらかといえば多くなった」と回答した方は41%で、前回の調査時より23ポイント減少した。

SQ1 不安になることが少なくなった原因は何だと思いますか。(複数回答)

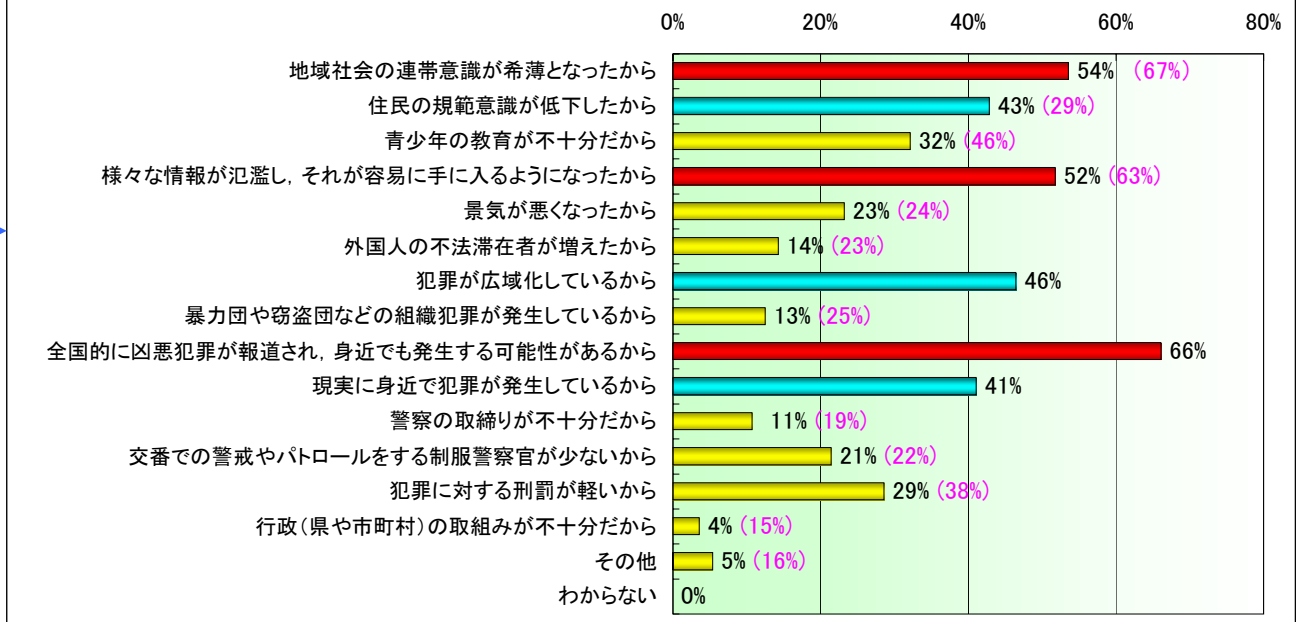
【Q2で「少なくなった」又は「どちらかといえば少なくなった」と回答した方への更問】



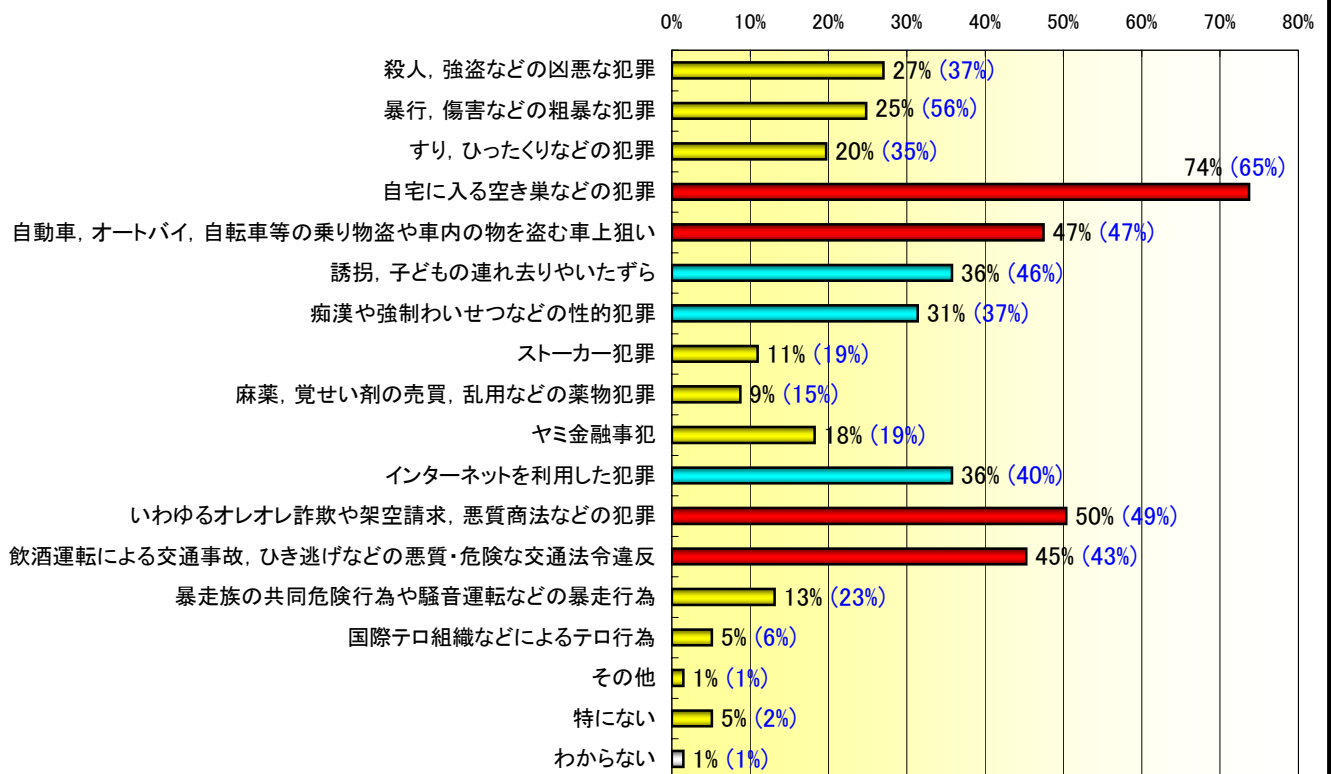
SQ1 ここ1年間の犯罪への不安について「少なくなった」又は「どちらかといえば少なくなった」と回答した方の多くが、その理由について「地域社会の連帯意識が高まってきているから」、「地域住民等による防犯ボランティア団体の取組みが活発になってきているから」、「子どもへの声かけ事業の発生状況など、地域に身近な犯罪等に関する情報が提供されるようになってきているから」を挙げている。

SQ2 不安になることが多くなった原因は何だと思いますか。
(複数回答)

[Q2で「どちらかといえば多くなった」又は「多くなった」と回答した方への更問]



Q3 あなたが、自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安になる
犯罪は何ですか。(複数回答)

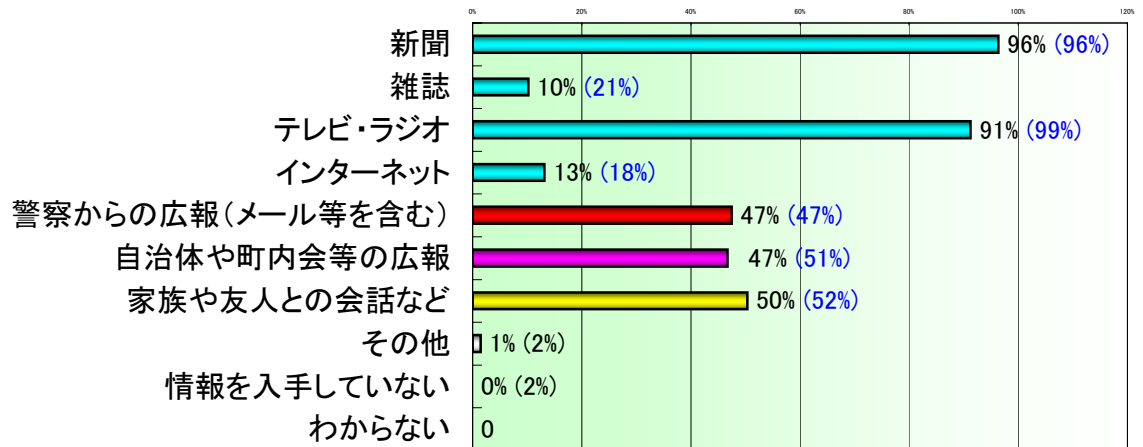


Q3

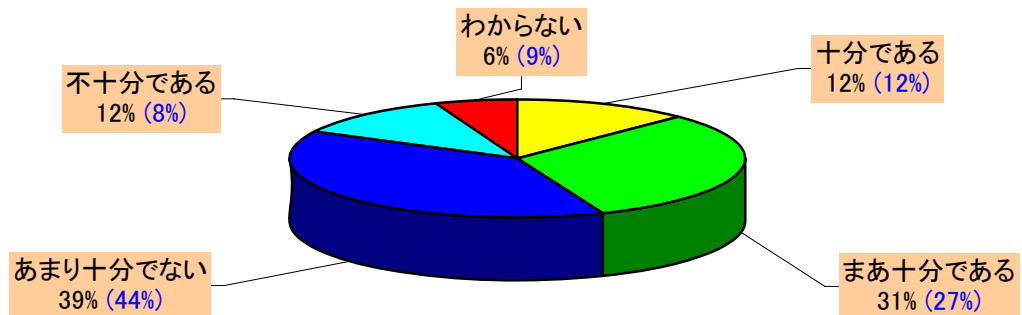
自分や身近な人が、犯罪に遭うかもしれないと不安になる犯罪について「自宅に入る空き巣などの犯罪」、「いわゆるオレオレ詐欺や架空請求、悪質商法などの犯罪」、「飲酒運転による交通事故、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反」と回答した方が増加した。

2 犯罪に関する情報について

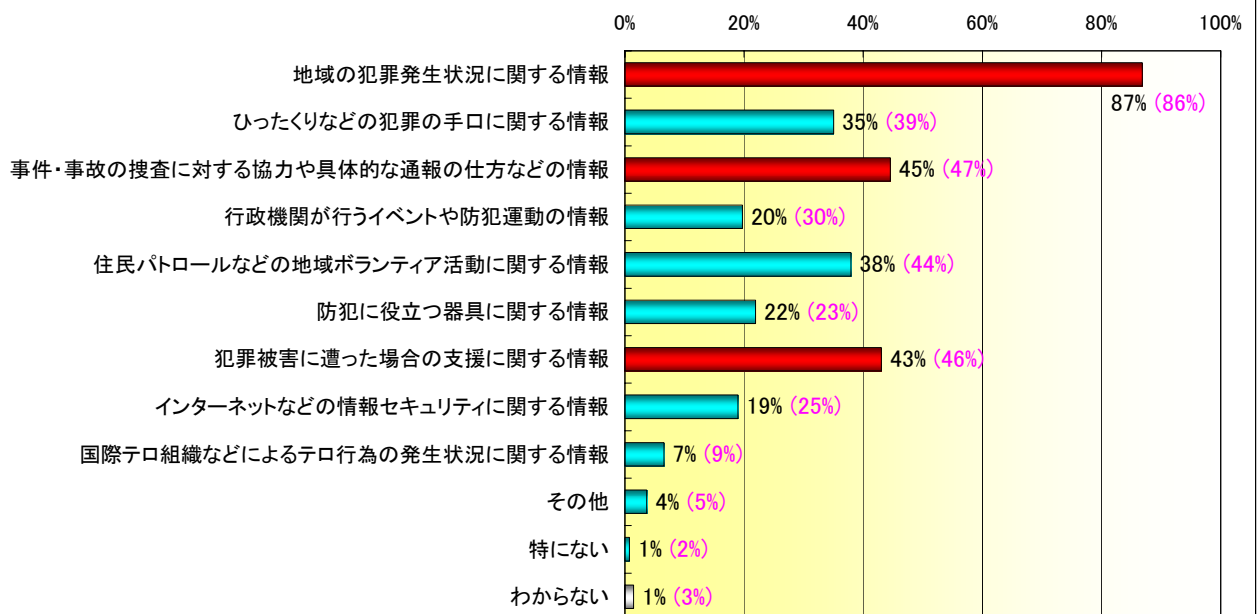
Q4 あなたは、どのような方法で治安や犯罪に関する情報を入手していますか。(複数回答)



Q5 あなたは、警察や自治体からの治安や犯罪に関する情報提供は十分であると思いますか。



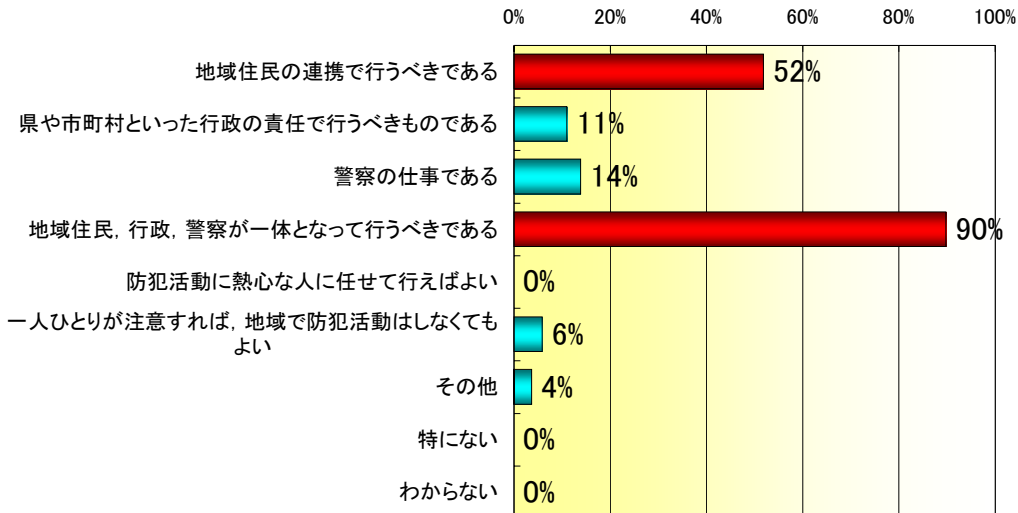
Q6 あなたは、治安や犯罪に関する情報として、どのようなものが提供されたらよいと思いますか。(複数回答)



Q5,Q6 警察や自治体からの情報提供について「十分である」又は「まあ十分である」と回答した方は43%で、前回の調査時より4ポイント増加しているものの、51%の方が「不十分である」又は「あまり十分でない」と回答しており、求めている情報については、87%の方が「地域の犯罪発生状況に関する情報」と回答している。

3 安全で安心なまちづくりについて

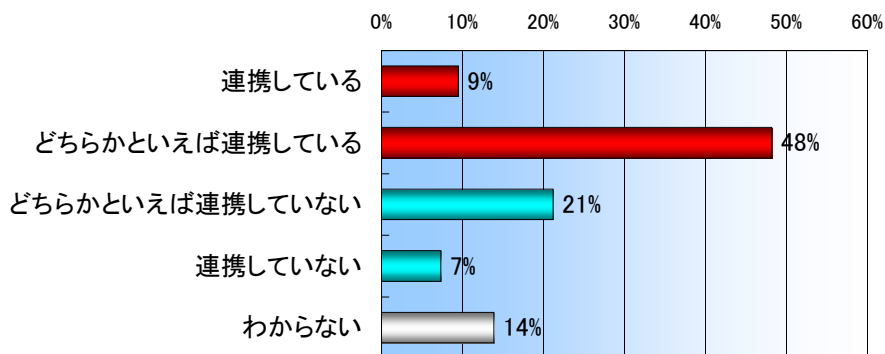
Q7 安全で安心なまちづくりを行うために、あなたの考え方に近いものはどれですか。(2つまで回答)



Q7

安全で安心なまちづくりを行うための考え方について、90%の方が「地域住民、行政、警察が一体となって行うべきである」と回答し、52%の方が「地域住民の連携で行うべきである」と回答している。

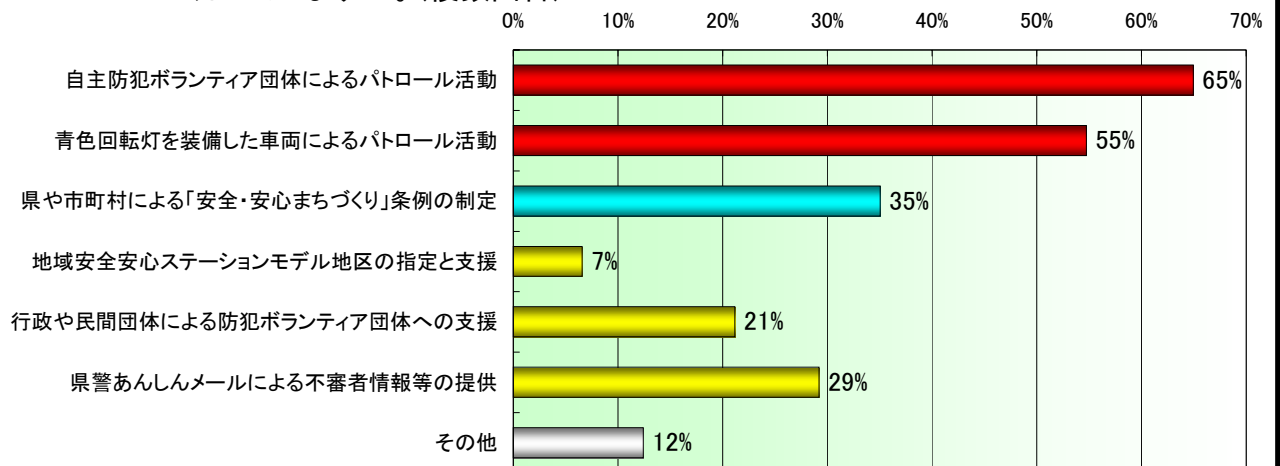
Q8 あなたのお住まいの地域では、安全で安心なまちづくりのために、住民、行政、警察が協力して助け合うなど、連携して取り組んでいると思いますか。



Q8

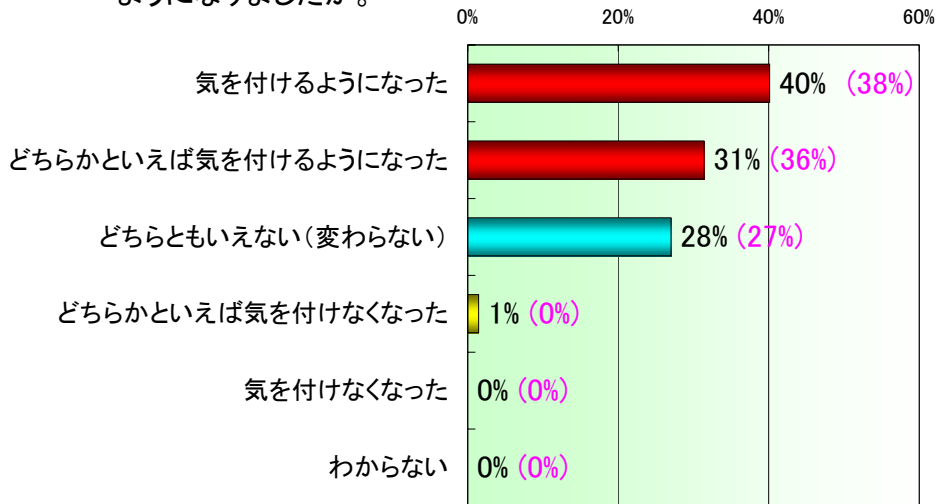
住民、行政、警察の連携について57%の方が「連携している」又は「どちらかといえば連携している」と回答している。

Q9 あなたは、安全で安心なまちづくりのために行われている活動について知っていますか。(複数回答)



Q9 安全で安心なまちづくりのために行われている活動について、65%の方が「自主防犯ボランティア団体によるパトロール活動」を知っていると回答し、55%の方が「青色回転灯を装備した車両によるパトロール活動」を知っていると回答している。

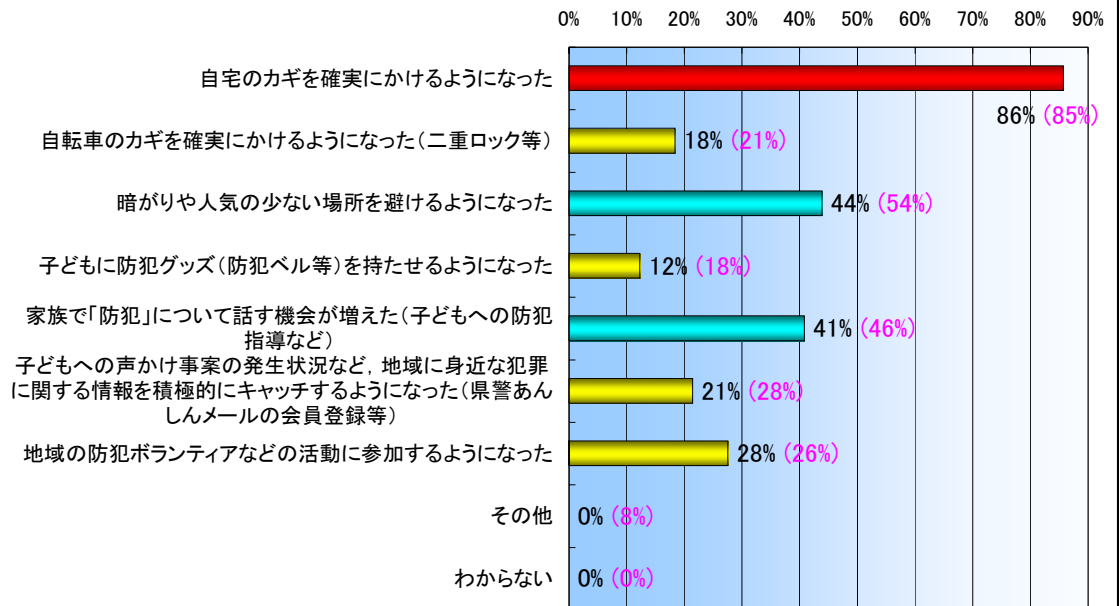
Q10 あなたは、ここ1年間で「防犯」ということに気を付けるようになりましたか。



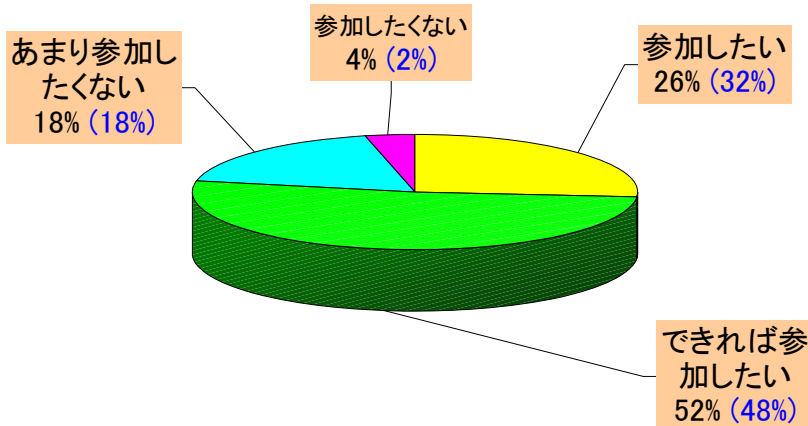
Q10, SQ1
71%の方が、ここ1年間で防犯ということに「気を付けるようになった」又は「どちらかといえば気を付けるようになった」と回答している。
また、気を付けるようになった点としては、86%の方が「自宅のカギを確実にかけるようになった」と回答している。

SQ1 どのような点に気を付けるようになりましたか。(複数回答)

[Q10で「気を付けるようになった」又は「どちらかといえば気を付けるようになった」と回答した方への更問]

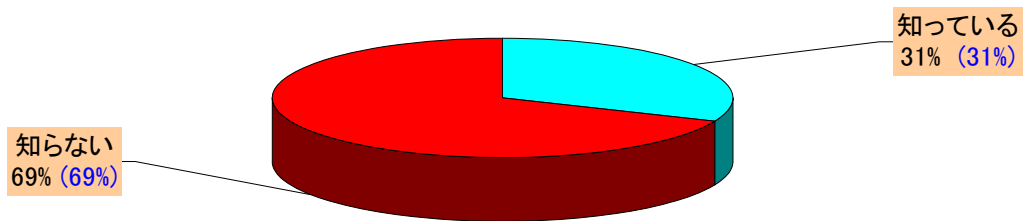


Q11 あなたは、地域住民によるパトロールなどの防犯ボランティア活動に参加したいと思いますか。



Q11
防犯ボランティア活動への参加について「参加したい」又は「できれば参加したい」と回答した方が78%で、前回の調査時より2ポイント減少しているが、前回同様に高い割合を占めている。

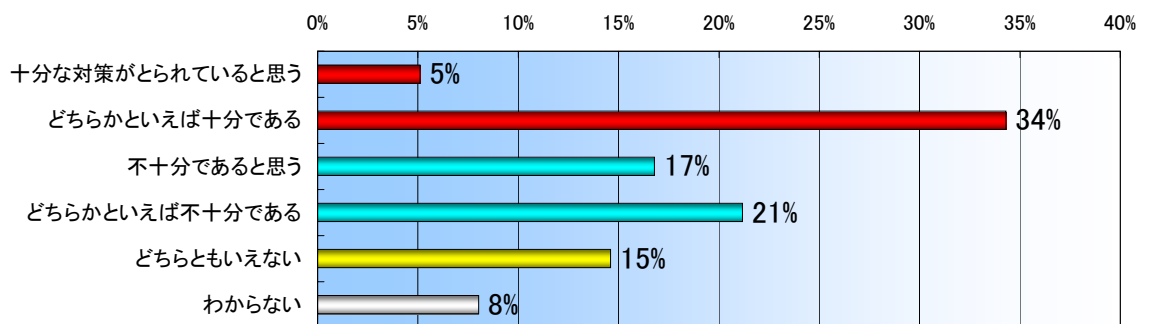
Q12 鹿児島県警では、平成17年4月から、「地域社会との連帯」を基本理念とする「あんしん・かごしま」創造プログラムを推進し、本年1月からは同プログラムを「あんしん・かごしま」創造プログラム2007に改訂して、さらに自治体、関係機関・団体、ボランティアの方々との連携、協働による様々な取組みを行っています。あなたは、この取組みについて知っていますか。



4 子どもの安全対策について

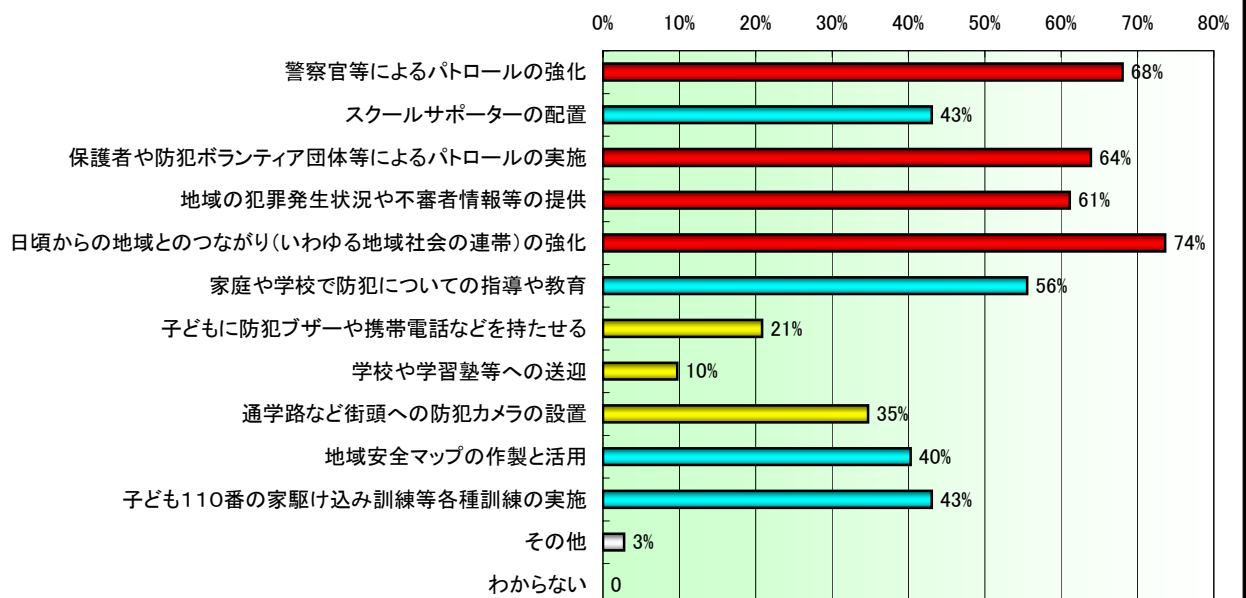
※ 本年新たに設けた調査項目

Q13 あなたは、子どもの安全についてどう思いますか。



SQ1 子どもの安全対策には何が必要だと思われますか。(複数回答)

[Q13で「不十分であると思う」又は「どちらかといえば不十分である」又は「どちらともいえない」と回答した方への更問]



Q13, SQ1

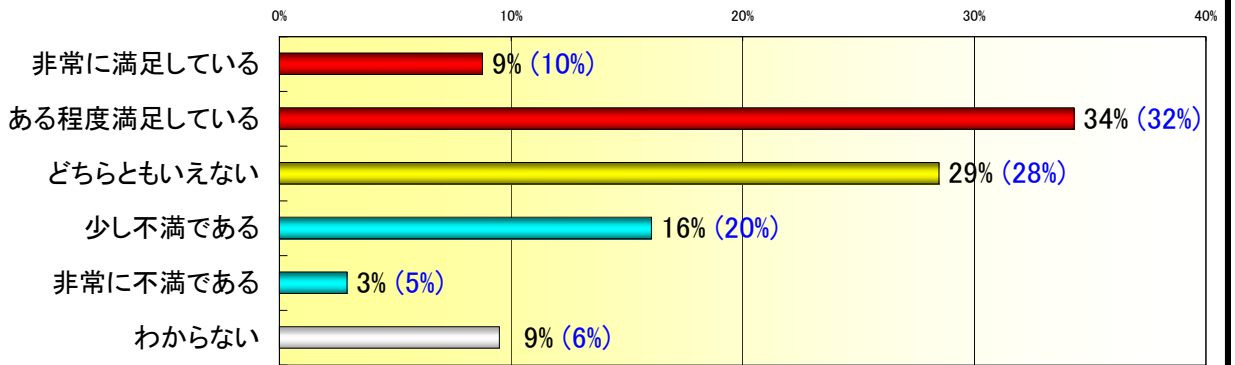
子どもの安全について、39%の方が「十分な対策がとられていると思う」又は「どちらかといえば十分である」と回答している一方、38%の方が「不十分である」又は「どちらかといえば不十分である」と回答している。

また、必要とする子どもの安全対策について、「日ごろからの地域とのつながりの強化」、「警察官等によるパトロールの強化」、「保護者や防犯ボランティア団体等によるパトロールの実施」等を挙げている。

5 交番・駐在所について

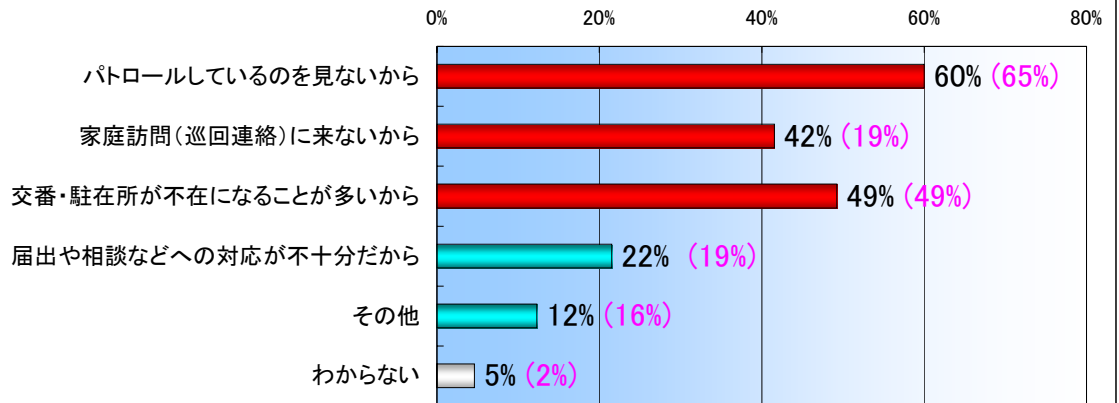
5 交番・駐在所について

Q14 あなたは、近くの交番・駐在所の警察官の活動について、満足していますか。



SQ1 不満である理由は何ですか。(複数回答)

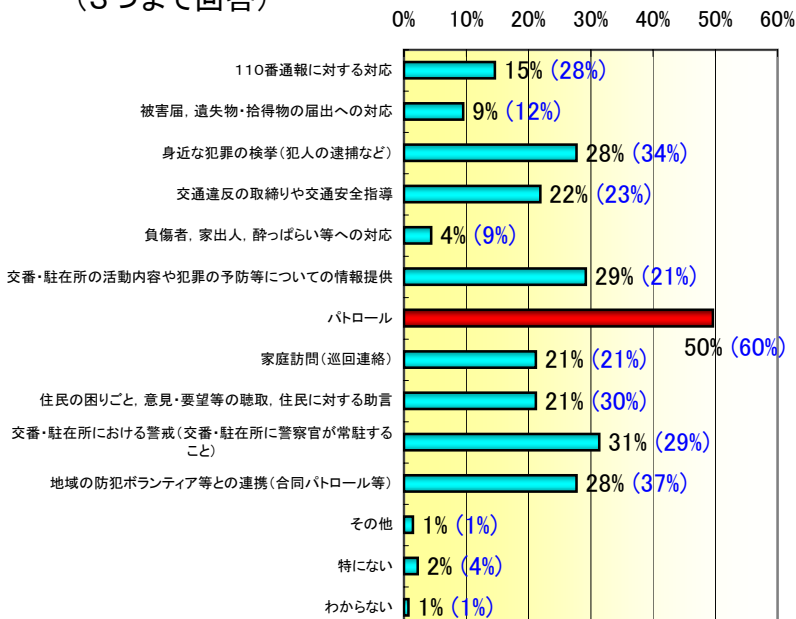
〔Q14で「どちらともいえない」又は「少し不満である」又は「非常に不満である」と回答した方への更問〕



Q14, SQ1

近くの交番・駐在所の活動について、43%の方が「非常に満足している」又は「ある程度満足している」と回答している一方、19%の方が「少し不満である」又は「非常に不満である」と回答しており、その理由として「パトロールしているのを見ないから」、「交番・駐在所が不在になることが多いから」、「家庭訪問に来ないから」等を挙げている。

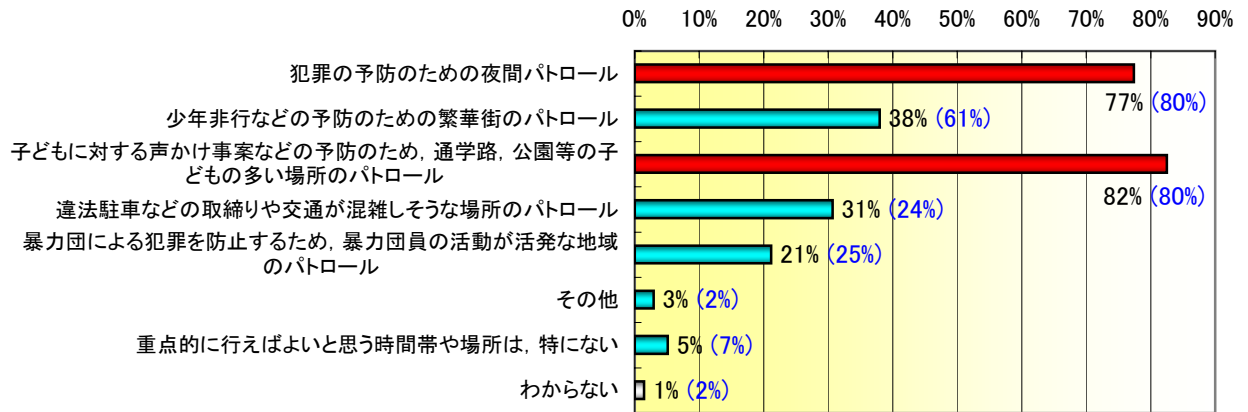
Q15 あなたは、今後、交番・駐在所の警察官にどのような活動を特に強化してほしいと思いますか。(3つまで回答)



Q15

警察に特に強化してほしい活動として、50%の方が「パトロール」と回答し、「交番・駐在所における警戒」、「交番・駐在所の活動内容や犯罪の予防等についての情報提供」、「身近な犯罪の検挙」、「地域の防犯ボランティア等との連携」等が続いている。

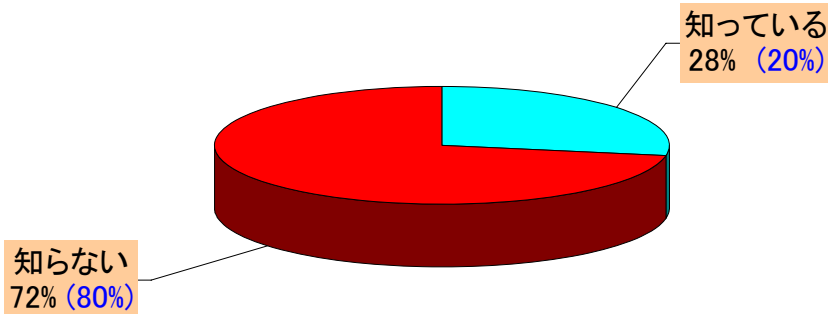
Q16 あなたは、警察官がパトロールを行う際、どのような時間帯や場所を重点的に行えばよいと思いますか。(複数回答)



Q16 多くの方が「子どもの多い場所のパトロール」及び「夜間パトロール」を要望しており、前回の調査時と同様の結果となっている。

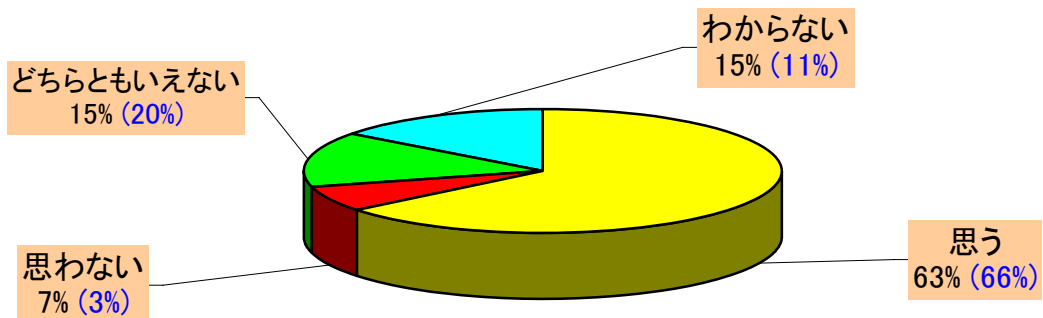
6 交番相談員について

Q17 警察官が、パトロールなどで交番にいないときでも、交番を訪れた住民に対応することができるように交番相談員を交番に配置しています。あなたは、交番相談員が配置されていることを知っていますか。



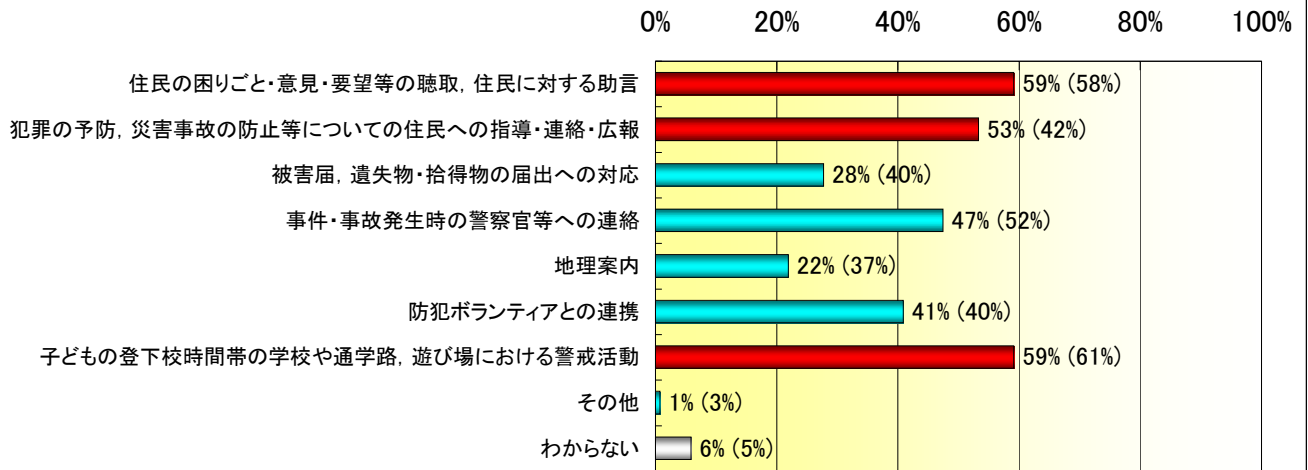
Q17 交番相談員について28%の方が「知っている」と回答しており、前回調査時よりも8ポイント増加したが、いまだ72%の方が、交番相談員が配置されていることを「知らない」と回答している。

Q18 あなたは、交番相談員が交番にいることは住民へのサービスにつながっていると思いますか。



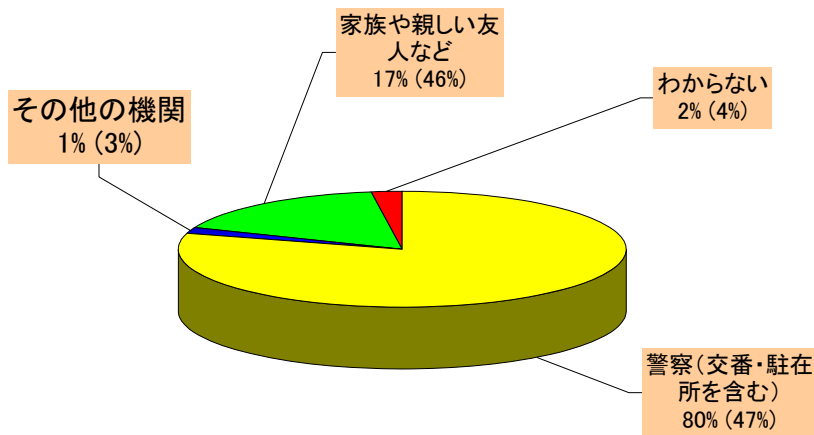
Q18 交番相談員の配置について、63%の方が、住民へのサービスにつながっていると「思う」と回答している。

Q19 あなたは、今後、交番相談員にどのような活動を強化してほしいと思いますか。(複数回答)



7 警察安全相談について

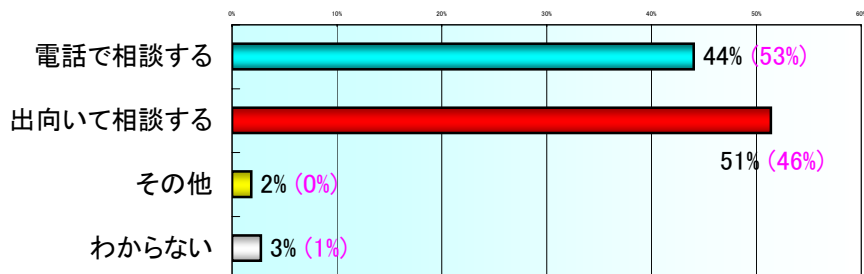
Q20 あなたは、身の回りで犯罪等の被害をこうむるかもしれない不安なことが起きたら、どこに相談しますか。



Q20, SQ2
身の回りで犯罪等の被害をこうむるかもしれない不安なことが起きたときの相談先について、「警察」と回答した方が80%であり、前回の調査時より33ポイント増加しており、うち57%の方が「相談を受ける体制を拡充してほしい」と回答している。

SQ1 あなたは、警察に相談するとしたら、電話で相談しますか、出向いて相談しますか。

【Q20で警察(交番・駐在所を含む)と回答した方への更問】



SQ2 あなたは、警察署における相談を受ける体制は、今のままでよいと思いますか。

【Q20で警察(交番・駐在所を含む)と回答した方への更問】

